

## 2010 年度秋学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	社会福祉	学科
担当科目	社会福祉基礎演習 I (小クラス：永田祐先生)		

<秋学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

小クラスでの仕事内容は春学期と大きな変わりは無かったと思います。ただ前期よりも気分が楽でした。それは自分がチューターの仕事に慣れたことと、なにより受講生のみんなが授業になれてきている面もあったと思います。

自分もそうでしたが、1回生の春などまだ慣れない内は何をしていいのかわらず、発表準備などもあまりスムーズに行きません。しかし秋になって慣れてくると次に何をすべきか、何が必要か、といったことがわかり、作業も進めやすくなります。今回のチューターとしての関わりは、こういった動き出した受講生の「後押し」をすることが多かったように思います。それまでは先生やチューターのアドバイスをそのまま実行するだけだったような面もありましたが、秋からは進め方が主体的になってきていて、メンバー毎、グループ毎の考え方や特徴が発表に現れていたように思いました。

これに関連して秋学期の小クラスでそれまでと変わってきた事は、クラスの雰囲気や作業の雰囲気でした。以前よりも笑顔が増え活発になった意見の出し合いや、グループの中で自然に発生するそれぞれの役割など、受講生同士の距離がかなり縮まったように思えます。思えば自分が一回生のとき先生が「このFYSと基礎演習は、小中高のホームルームみたいなもの」と仰っていました。秋学期が春学期と同じメンバーで受講できることは、春学期で培ったお互いの絆のようなものを活かし、さらにワンステップ進んだグループワークを可能にしたように感じています。この秋はグループにおけるメンバー同士の仲の良さ、心理的距離な近さの大切さを実感しました。

最後になりますが、春、秋に渡ってチューターとして授業に関わらせていただきありがとうございました。上手に言葉に表すことは叶いませんが、自分なりに言えばたくさんの学びや気付きを「楽しみながら」経験することができました。チューター活動を支えてくださいました全ての方々、私を受け入れていただいた受講生の方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

<今後のチューターまたは先生への提案>

今後チューター制度を続けるならば、「受講生側がチューターにどんな働きを求めているのか」、「チューターが授業にいたことについての感想」などを学年末にアンケートしてはどうでしょうか。受講生の率直な意見を聞きたいので、結果を直接見るのは教職員とし、チューターは教員から間接的にのみ回答について知る形にします。ひょっとしたら既に行っているのかもしれませんが、今後の改善に不可欠だと感じましたので僭越ながら具申いたします。